LOBO 早期景気観測 調査

12月分　日商調査日　12月4日～19日
　　当所調査日　12月4日～21日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査
12月の全産業DI▲18・4（前月比▲2・0ポイント）

製造業では、部品などの供給制約の一部緩和に加え、企業の堅調な設備投資需要に牽引され、業況が改善した。また、卸売業でも、製造業向けの原材料・部品などの引き合いが増加し、改善した。

一方、建設業では資材・燃料価格の高騰に加え、人手不足による受注機会の損失で業況が悪化した。また、小売業・サービス業では、物価高に感染拡大が重なり、消費マインドが一段と低下し、業況が悪化した。

経済活動が正常化に向かう一方、原材料・エネルギー価格の高騰や人件費の増加など、コスト負担増は継続している。増加するコストに見合う十分な価格転嫁も行えていない中、感染拡大も重なり、中小企業の業況は悪化に転じた。

○中小企業の景況感
○先行き

先行き見通しDIは▲23・8（今月比▲5・4ポイント）

全国旅行支援の継続による観光需要の回復や、年末年始商戦を契機とした個人消費拡大への期待感が伺える一方、感染拡大による消費マインドのさらなる低下を危惧する声が聞かれた。引き続き、エネルギー価格の高騰によるコスト負担増や深刻な人手不足が企業経営の足かせとなる中、欧米などの世界経済の鈍化による外需の停滞も懸念され、中小企業の先行きは、厳しい見方となっている。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

仕入単価の上昇分は、顧客と協議の上で販売単価へ上乗せ出来ているが、他社との価格競争もあり、上乗せ金額は最小限となっている（電気通信工事業）。

団体客の予約が戻ってきた矢先、感染者数の増加でキャンセルが発生した。消費者の意識がコロナとの共生に向かってほしい（飲食業）。

当所調査
「景況感は3カ月ぶりの悪化」

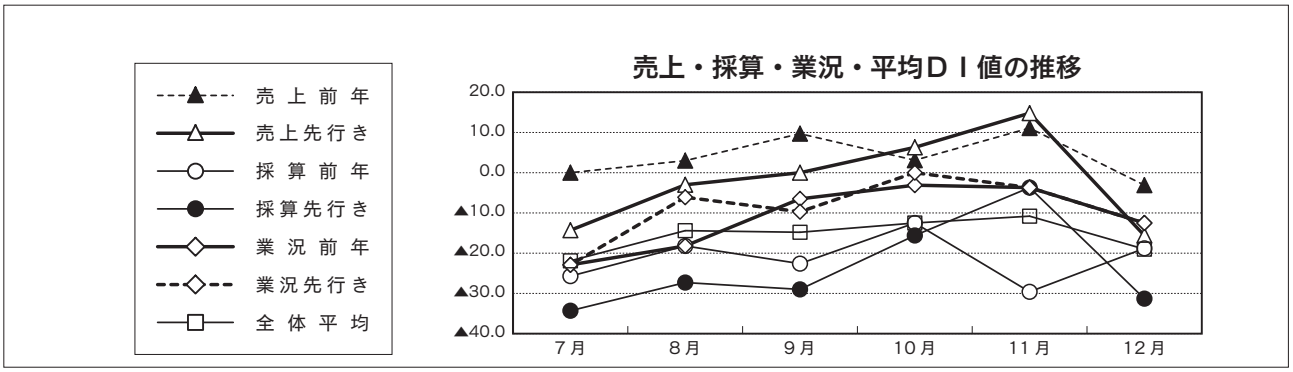
全体平均DIは▲19・0で前月に比べ▲8・2ポイントの悪化。項目別では、売上先行き▲30・4ポイント、採算先行き▲27・6ポイントの悪化が見られた。コメントには「売上高は前年を維持しているが、仕入価格の高騰により、利益が出ず、値上げせざるを得ない」（菓子小売業）、「材料の高騰や受注数の減少で、資金繰りが見通せない状況である」（建築業）など、仕入価格高騰による影響に対するコメントが多く見受けられた。

（全産業）

水戸商工会議所会員企業LOBO調査（ＤＩ値推移）

（サンプル数40社）

項目	令和3年	令和4年					
	12月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上前年	15.6	0.0	3.0	9.7	3.1	11.1	▲ 3.1
売上先行き	15.6	▲ 14.3	▲ 3.0	0.0	6.3	14.8	▲ 15.6
採算前年	▲ 6.3	▲ 25.7	▲ 18.2	▲ 22.6	▲ 12.5	▲ 29.6	▲ 18.8
採算先行き	6.3	▲ 34.3	▲ 27.3	▲ 29.0	▲ 15.6	▲ 3.7	▲ 31.3
仕入前年	▲ 65.6	▲ 74.3	▲ 72.7	▲ 77.4	▲ 71.9	▲ 77.8	▲ 75.0
仕入先行き	▲ 56.3	▲ 71.4	▲ 63.6	▲ 71.0	▲ 62.5	▲ 70.4	▲ 65.6
社員前年	18.8	14.3	18.2	19.4	18.8	33.3	18.8
社員先行き	18.8	14.3	21.2	19.4	9.4	25.9	15.6
業況前年	6.3	▲ 22.9	▲ 18.2	▲ 6.5	▲ 3.1	▲ 3.7	▲ 12.5
業況先行き	3.1	▲ 22.9	▲ 6.1	▲ 9.7	0.0	▲ 3.7	▲ 12.5
資金前年	▲ 6.3	▲ 14.3	▲ 9.1	▲ 6.5	▲ 15.6	▲ 11.1	▲ 12.5
資金先行き	3.1	▲ 11.4	3.0	▲ 3.2	▲ 6.3	▲ 14.8	▲ 15.6
全体平均	▲ 3.9	▲ 21.9	▲ 14.4	▲ 14.8	▲ 12.5	▲ 10.8	▲ 19.0



※ＤＩ値（景況判断指数）＝（増加・好転等の回答数-減少・悪化等の回答数）／全回答数×100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味するもの。